

(様式第 10)

番 号

令和元年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 日本医科大学
理事長 坂本

日本医科大学付属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5
氏 名	学校法人 日本医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

日本医科大学付属病院

3 所在の場所

〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5	電話 (03) 3822-2131
-----------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	①	無
内科と組み合わせた診療科名等		
① 呼吸器内科	② 消化器内科	③ 循環器内科
④ 腎臓内科	⑤ 神経内科	⑥ 血液内科
⑦ 内分泌内科	⑧ 代謝内科	⑨ 感染症内科
⑩ アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑪ リウマチ科	
診療実績		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載す

ること。

(2) 外科

外科	① · 無
外科と組み合わせた診療科名	
① 呼吸器外科	② 消化器外科
③ 乳腺外科	4 心臓外科
5 血管外科	⑥ 心臓血管外科
⑦ 内分泌外科	8 小児外科
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科	② 小児科	③ 整形外科	④ 脳神経外科	⑤ 皮膚科	⑥ 泌尿器科	⑦ 産婦人科
8 産科	9 婦人科	⑩ 眼科	⑪ 耳鼻咽喉科	⑫ 放射線科	13 放射線診断科	
⑭ 放射線治療科	⑮ 麻酔科	⑯ 救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	① · 無
歯科と組み合わせた診療科名	
① 口腔科（周術期）	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 形成外科	2 漢方内科	3 病理診断科	4 リハビリテーション科
--------	--------	---------	--------------

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
27床	床	床	床	850床	877床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	509 人	151 人	618.01人	看 護 補 助 者	83 人	診療エックス線技師	0 人
歯 科 医 師	2人	1人	2.03 人	理 学 療 法 士	23 人	臨床検査技師	107人
薬 剤 師	78 人	1人	78.02 人	作 業 療 法 士	6 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	人	人	人	視 能 訓 練 士	7 人	そ の 他	人
助 産 師	29人	0人	29 人	義 肢 装 具 士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	1,091人	4人	1,093.7人	臨 床 工 学 士	33人	医療社会事業従事者	9 人
准 看 護 師	1人	0人	1 人	栄 養 士	1 人	その他の技術員	6人
歯科衛生士	2人	1人	2.05人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	174人
管理栄養士	8人	0人	8 人	診 療 放 射 線 技 師	69 人	そ の 他 の 職 員	33人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	25 人	眼 科 専 門 医	8 人
外 科 専 門 医	30 人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	10 人
精 神 科 専 門 医	6 人	放 射 線 科 専 門 医	19 人
小 児 科 専 門 医	14 人	脳 神 経 外 科 専 門 医	7 人
皮 膚 科 専 門 医	7 人	整 形 外 科 専 門 医	14 人
泌 尿 器 科 専 門 医	8 人	麻 醉 科 専 門 医	15 人
産 婦 人 科 専 門 医	18 人	救 急 科 専 門 医	29 人
		合 計	210 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (汲田 伸一郎) 任命年月日 平成 29 年 2 月 1 日

医療安全管理部部长、医療安全管理責任者、医療安全管理委員会委員長
 平成 26 年 4 月 1 日から平成 29 年 1 月 31 日

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	767.6 人	0 人	767.6 人
1日当たり平均外来患者数	1,841.8 人	21 人	1,862.8 人
1日当たり平均調剤数			1214.9 剤
必要医師数			188.04人
必要歯科医師数			2人
必要薬剤師数			26人
必要(准)看護師数			446人

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	心電計	人工呼吸装置	心細動除去装置
集中治療室	4,618.17m ²	鉄筋コンクリート	96 床	有・無	有・無	有・無
			有・無	有・無	有・無	有・無
			有・無	有・無	有・無	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 192,558 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	11 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 24.56 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	496.42m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体前処理分注機、免疫化学分析装置、血液凝固測定機等			
細菌検査室	171.85 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液培養装置、一般細菌同定感受性分析装置、安全キャビネット等			
病理検査室	464.85m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 安全キャビネット、凍結切片作成装置、低温フリーザー等			
病理解剖室	80.1m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 感染対策解剖台、遺体冷蔵庫、肉眼撮影装置等			
研究室	1,503.34m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 病理組織学標本作成装置、細胞培養装置、オートクレーブ装置等			
講義室	623.67 m ²	鉄筋コンクリート	室数 4 室	収容定員	620 人	
図書室	1,511.6m ²	鉄筋コンクリート	室数 10 室	蔵書数	59,980 冊程度	

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	85.2%	逆紹介率	48.9%
算出根拠	A: 紹介患者の数			21,857人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			15,619人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			5,367人
	D: 初診の患者の数			31,964人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
長島 隆	東洋大学	○	利害関係のない学識経験者	有・ 無	1
小泉 博明	文京学院大学		利害関係のない学識経験者	有・ 無	1
豊田 郁子	NPO 法人「架け橋」		利害関係のない医療従事者以外の者	有・ 無	2
近藤 幸尋	日本医科大学付属病院		副院長・泌尿器科部長	有 ・無	3
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 ・無
委員の選定理由の公表の有無	有 ・無
公表の方法	
学校法人のホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	手術支援ロボットによる肺切除術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(ダヴィンチ)を用い肺悪性腫瘍手術を行う			
医療技術名	手術支援ロボットによる縦隔腫瘍摘出術	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(ダヴィンチ)による縦隔腫瘍摘出術を行う			
医療技術名	気管支サーモプラスチック	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 重症喘息例に対して、内径3～10mmの気管支を対象に気管支鏡下で専用のカテーテルを挿入し、目的とする気管支に対して65℃で10秒間通電し、肥厚した気管支滑筋を減少し気道の収縮力を抑える			
医療技術名	修正型通電療法	取扱患者数	589人
当該医療技術の概要 全身麻酔下でパルス波治療器を用いて両側顔部に貼った電極シールから電流を通電することで脳神経細胞を刺激し、うつ病や緊張病等の病状を改善させる治療法。当精神神経科は都内でも有数の治療実績があり、中高年の身体合併症のある患者に積極的に使用し、高い改善率を示している。			
医療技術名	ステント併用脳動脈瘤コイル塞栓術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 脳動脈瘤支援ステントを併用して脳動脈瘤コイル塞栓術を行う			
医療技術名	内視鏡下筋層切開術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 食道アカシアなど食道運動機能障害を来す狭窄性の疾患に対して、経口内視鏡を用いて食道に粘膜下層トンネルを作成し、露出した内輪筋を切開する内視鏡治療手技			
医療技術名	腹腔鏡内視鏡合同手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 胃粘膜下腫瘍などの胃腫瘍性病変に対して腹腔鏡と経口内視鏡を用いて最小範囲での局所切除を行う低侵襲手術			
医療技術名	補助循環用ポンプカテーテル	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 小型ポンプを左心室に留置し、順行性の血流を増加させる事で、心臓補助と循環維持を行う。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病	59
2	筋萎縮性側索硬化症	7	57	特発性拡張型心筋症	51
3	脊髄性筋萎縮症		58	肥大型心筋症	55
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	9	60	再生不良性貧血	37
6	パーキンソン病	113	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	2	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	68
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	4	65	原発性免疫不全症候群	6
11	重症筋無力症	68	66	IgA腎症	27
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	33
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	51	68	黄色靱帯骨化症	2
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	18	69	後縦靱帯骨化症	15
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	5
16	クロー・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	19
17	多系統萎縮症	8	72	下垂体性ADH分泌異常症	20
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	27	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライソゾーム病	3	74	下垂体性PRL分泌亢進症	22
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	21
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	20	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	46
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	157
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	7	83	アジソン病	
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	88
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	42
31	ベスレムミオパチー	3	86	肺動脈性肺高血圧症	14
32	自己貪食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2
34	神経線維腫症	22	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	9	90	網膜色素変性症	16
36	表皮水疱症		91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	5	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	44
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	14	95	自己免疫性肝炎	26
41	巨細胞性動脈炎	5	96	クローン病	50
42	結節性多発動脈炎	7	97	潰瘍性大腸炎	154
43	顕微鏡的多発血管炎	17	98	好酸球性消化管疾患	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	5	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	18	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	19	101	腸管神経節細胞減少症	
47	バージャー病	14	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	118	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	85	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	147	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	21	107	全身型若年性特発性関節炎	14
53	シェーグレン症候群	36	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	9	109	非典型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー		161	家族性良性慢性天疱瘡	2
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	14
113	筋ジストロフィー	6	163	特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	5
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	11
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症		177	有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ビクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	1
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠神てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	ブラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群		194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンブソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マガニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	3
215	ファロー四徴症		263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	49	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	5
224	紫斑病性腎炎	3	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)		274	骨形成不全症	
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球癆	
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メープルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	3
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシュヤー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	22

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病		319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準	・ ハイリスク妊娠管理加算
・ 歯科外来診療環境体制加算	・ ハイリスク分娩管理加算
・ 特定機能病院入院基本料	・ 後発医薬品使用体制加算
・ 超急性期脳卒中加算	・ 病棟薬剤業務実施加算
・ 診療録管理体制加算	・ データ提出加算
・ 医師事務作業補助体制加算	・ 入退院支援加算
・ 急性期看護補助体制加算	・ 認知症ケア加算
・ 看護職員夜間配置加算	・ 精神疾患診療体制加算
・ 無菌治療室管理加算	・ 精神科急性期医師配置加算
・ 緩和ケア診療加算	・ 救命救急入院料1
・ 精神科身体合併症管理加算	・ 救命救急入院料4
・ 精神科リエゾンチーム加算	・ 特定集中治療室管理料
・ 栄養サポートチーム加算	・ ハイケアユニット入院医療管理料
・ 医療安全対策加算	・ 新生児特定集中治療室管理料
・ 感染防止対策加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 抗菌薬適正使用支援加算	・ 小児入院医療管理料
・ 患者サポート体制充実加算	・ 短期滞在手術等基本料1
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 糖尿病合併症管理料	・ 口腔粘膜処置
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ CAD/CAM冠
・ がん患者指導管理料	・ 皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・ 外来緩和ケア管理料	・ 皮膚移植術(死体)
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・ 院内トリアージ実施料	・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・ 外来放射線照射診療料	・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・ ニコチン依存症管理料	・ 緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・ 療養・就労両立支援指導料	・ 人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ がん治療連携計画策定料	・ 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・ 排尿自立指導料	・ 内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・ ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ 乳癌悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
・ ハイリスク妊産婦連携指導料2	・ 乳癌悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・ 薬剤管理指導料	・ 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

<ul style="list-style-type: none"> 検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料 	<ul style="list-style-type: none"> 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
<ul style="list-style-type: none"> 医療機器安全管理料1 	<ul style="list-style-type: none"> 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
<ul style="list-style-type: none"> 医療機器安全管理料2 	<ul style="list-style-type: none"> 胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
<ul style="list-style-type: none"> 医療機器安全管理料(歯科) 	<ul style="list-style-type: none"> 経カテーテル大動脈弁置換術
<ul style="list-style-type: none"> 総合医療管理加算(歯科疾患管理料) 	<ul style="list-style-type: none"> 経皮的僧帽弁クリップ術
<ul style="list-style-type: none"> 歯科治療時医療管理料 	<ul style="list-style-type: none"> 磁気ナビゲーション加算
<ul style="list-style-type: none"> 持続血糖測定器加算 	<ul style="list-style-type: none"> 経皮的中隔心筋焼灼術
<ul style="list-style-type: none"> 遺伝学的検査 	<ul style="list-style-type: none"> ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
<ul style="list-style-type: none"> HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) 	<ul style="list-style-type: none"> 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
<ul style="list-style-type: none"> 検体検査管理加算(I) 	<ul style="list-style-type: none"> 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術
<ul style="list-style-type: none"> 検体検査管理加算(IV) 	<ul style="list-style-type: none"> 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
<ul style="list-style-type: none"> 国際標準検査管理加算 	<ul style="list-style-type: none"> 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
<ul style="list-style-type: none"> 遺伝カウンセリング加算 	<ul style="list-style-type: none"> 経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
<ul style="list-style-type: none"> 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 	<ul style="list-style-type: none"> 補助人工心臓
<ul style="list-style-type: none"> 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト 	<ul style="list-style-type: none"> バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
<ul style="list-style-type: none"> ヘッドアップティルト試験 	<ul style="list-style-type: none"> 胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
<ul style="list-style-type: none"> 皮下連続式グルコース測定 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下肝切除術

・ 長期継続頭蓋内脳波検査	・ 生体部分肝移植術
・ 神経学的検査	・ 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・ 補聴器適合検査	・ 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
・ ロービジョン検査判断料	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ コンタクトレンズ検査料	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ 小児食物アレルギー負荷検査	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ 内服・点滴誘発試験	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ センチネルリンパ節生検(片側)	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 画像診断管理加算1	・ 腹腔鏡下仙骨腫固定術
・ 画像診断管理加算2	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・ 画像診断管理加算3	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・ 遠隔画像診断	・ 胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・ CT撮影及びMRI撮影	・ 輸血管理料 I
・ 冠動脈CT撮影加算	・ 輸血適正使用加算
・ 外傷全身CT加算	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ 心臓MRI撮影加算	・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・ 乳房MRI撮影加算	・ 歯周組織再生誘導手術
・ 小児鎮静下MRI撮影加算	・ レーザー機器加算の施設基準
・ 頭部MRI撮影加算	・ 麻酔管理料(I)

・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 麻酔管理料(Ⅱ)
・ 外来化学療法加算1	・ 放射線治療専任加算
・ 無菌製剤処理料	・ 外来放射線治療加算
・ 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 高エネルギー放射線治療
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 1回線量増加加算
・ 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 強度変調放射線治療(IMRT)
・ 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 画像誘導放射線治療加算 (IGRT)
・ がん患者リハビリテーション料	・ 体外照射呼吸性移動対策加算
・ 集団コミュニケーション療法料	・ 定位放射線治療
・ 救急患者精神科継続支援料	・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・ 画像誘導密封小線源治療加算
・ 医療保護入院等診療料	・ 病理診断管理加算
・ エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・ 悪性腫瘍病理組織標本加算
・ エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・ クラウン・ブリッジ維持管理料
・ 人工腎臓	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
非小細胞肺がんの転移活性を評価し、術後補助化学療法の効果を予測するバイオマーカーの実用化に関する研究	久保田 馨	呼吸器内科	26,760,000	補	日本医療研究開発機構
周期的圧刺激によって制御される血管新生のシグナル伝達機構の解明 —非接触超音波を用いた創傷治療法の開発を目指して—	小川 令	形成外科・再建外科・美容外科	78,664,170	補	日本医療研究開発機構
ブルガダ症候群における心臓突然死のリスク予測モデルの構築と診療応用のための研究【総括・データ収集・自動解析ソフトの開発】	清水 渉	循環器内科	1,000,000	補	日本医療研究開発機構
発症時刻不明の急性期脳梗塞に対する適正な血栓溶解療法の推進を目指す研究	木村 和美	脳神経内科	150,000	補	日本医療研究開発機構
全身性強皮症に対する新規低分子化合物の有効性に関する研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	100,001	補	日本医療研究開発機構
同種造血幹細胞移植患者における、ステロイド抵抗性/依存性腸管急性移植片対宿主病(GVHD)に対する便微生物移植(fecal microbiota transplantation)の有効性を検討する第Ⅱ相多施設共同研究	山口 博樹	血液内科	156,000	補	日本医療研究開発機構
ピロリ菌除菌後健康人を対象とした世界初エピゲノム発がんリスク診断の実用化	貝瀬 満	消化器・肝臓内科	500,000	補	日本医療研究開発機構
タンパク質・ペプチド修飾解析による早期がん・リスク疾患診断のための血液バイオマーカーの開発	野呂 林太郎	呼吸器内科	520,000	補	日本医療研究開発機構
「一過性骨髄異常増殖症に対する化学療法および白血病発症予防法の確立を目指した第2相臨床試験」の開発【TAMに対する少量シタラビン療法の効果判定方法の開発】	植田 高弘	小児科	300,300	補	日本医療研究開発機構
急性大動脈解離発症前造影CT画像の解析	林 宏光	放射線科	1,653,700	補	日本医療研究開発機構
小児脳腫瘍に対する多施設共同研究による治療開発	前林 勝也	放射線科	150,000	補	日本医療研究開発機構
磁気ナノ粒子によるセンチネルリンパ節の特定とがん転移の迅速診断法の開発	武井 寛幸	乳腺科	16,861,638	補	日本医療研究開発機構
不育症の原因解明、予防治療に関する研究	竹下 俊行	女性診療科・産科	1,300,000	補	日本医療研究開発機構
機序の異なる人工知能の多重解析による癌コンパニオン診断システムの開発	木村 剛	泌尿器科	500,240	補	日本医療研究開発機構
頭頸部癌全国症例登録システムの構築と臓器温存治療のエビデンス創出	中溝 宗永	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	650,000	補	日本医療研究開発機構
HPV関連中咽頭癌の治療最適化に関する研究	中溝 宗永	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	400,000	補	日本医療研究開発機構
成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究	汲田 伸一郎	放射線科	600,000	補	国立研究開発法人国立がん研究センター

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
アミロイド関連うつ病の分子イメージング	大久保 善朗	精神神経科	3,770,000	補委	文部科学省
新しい災害医療対応シミュレーションシステムを用いた災害医学教育、災害医療の実践	布施 明	救命救急科	3,900,000	補委	文部科学省
虚血再灌流病態を伴う外傷性脳内血腫に対する術前急速導入脳低温療法の有効性の検討	横堀 将司	救命救急科	1,560,000	補委	文部科学省
血漿非対称ジメチルアルギニン濃度解析による脳卒中リハビリテーション転帰の早期予知	阿部 新	脳神経内科	650,000	補委	文部科学省
周術期心不全治療のための水チャンネル・アクアポリンの研究	網谷 亮輔	心臓血管外科	780,000	補委	文部科学省
ノックアウトマウスを用いた腎虚血再灌流障害におけるEgr-1の果たす役割の解析	新井 正徳	救命救急科	1,300,000	補委	文部科学省
網膜色素変性モデルに対する水素水飲用による視細胞保護効果	五十嵐 徹	小児科	1,430,000	補委	文部科学省
開心術後心房細動を予防する革新的な心房局所に対する抗炎症薬剤徐放化システムの構築	石井 庸介	心臓血管外科	2,210,000	補委	文部科学省
microRNAを介した全身麻酔作用機序の検討	石川 真士	麻酔科・ペインクリニック	1,170,000	補委	文部科学省
白血病幹細胞Hippo pathwayによる遺伝子変異獲得と耐性機序の解明	猪口 孝一	血液内科	1,170,000	補委	文部科学省
長期高ガストリン血症の胃粘膜に及ぼす影響	岩切 勝彦	消化器・肝臓内科	1,170,000	補委	文部科学省
末梢小型肺癌に対する新しい内視鏡治療法の開発	臼田 実男	呼吸器外科	1,300,000	補委	文部科学省
アレルギー疾患に対するアジュバント免疫療法の確立	大久保 公裕	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	910,000	補委	文部科学省
気管挿管患者に対する抜管後嚥下機能評価に基づく経口摂取開始と誤嚥性肺炎予防の研究	恩田 秀賢	救命救急科	520,000	補委	文部科学省
再生医療を用いた重症頭部外傷治療戦略の確立と効率化	金谷 貴大	救命救急科	2,080,000	補委	文部科学省
組織中および尿中ビッグデータに基づいたBCG注入後膀胱癌再発予測システムの開発	木村 剛	泌尿器科	780,000	補委	文部科学省
がん患者のQOLモニタリングの研究	久保田 馨	呼吸器内科	1,300,000	補委	文部科学省
ずり応力によるiPS細胞由来血管内皮細胞の形態変化に伴う細胞機能・応答機構の解明	栗田 二郎	心臓血管外科	780,000	補委	文部科学省
強皮症の線維化・血管リモデリングを誘導する新規末梢血単球サブセットの同定	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	1,560,000	補委	文部科学省
新たな早産予防戦略を指向した、子宮頸管における無菌性炎症とその制御機構の解明	桑原 慶充	女性診療科・産科	910,000	補委	文部科学省
Liquid biopsyを用いた直腸癌術前化学療法の効果予測因子の同定	小泉 岐博	消化器外科	1,170,000	補委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
内視鏡的手縫い縫合法における臨床的有用性の評価および新しい内視鏡治療手技の開発	後藤 修	消化器・肝臓内科	1,820,000	補委	文部科学省
多発性筋炎・皮膚筋炎に併発する間質性肺炎の高フェリチン血症のメカニズムの解明	五野 貴久	リウマチ・膠原病内科	1,560,000	補委	文部科学省
アトピー性皮膚炎および乾癬の遺伝要因の研究	佐伯 秀久	皮膚科	910,000	補委	文部科学省
強皮症難治性臓器病変克服に向けた発症前治療標的の同定	白井 悠一郎	リウマチ・膠原病内科	1,560,000	補委	文部科学省
歯髄由来幹細胞とヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の融合による新規脳出血治療の開発	須田 智	脳神経内科	1,170,000	補委	文部科学省
ドライバー遺伝子異常肺癌の薬剤耐性機序における長鎖ノンコーディング RNAの意義	清家 正博	呼吸器内科	1,170,000	補委	文部科学省
3D画像を用いた膝関節症発生要因としての回旋不安定性解析	高井 信朗	整形外科・リウマチ外科	1,690,000	補委	文部科学省
高気圧酸素による非侵襲的血管病治療効果の研究	高木 元	循環器内科	1,170,000	補委	文部科学省
白内障手術における水素の角膜内皮保護効果	高橋 浩	眼科	1,430,000	補委	文部科学省
乳癌の術前内分泌療法の新しい効果予測因子の検討ー血管新生からのアプローチ	武井 寛幸	乳腺科	1,950,000	補委	文部科学省
中隔子宮における流産メカニズムの解明	竹下 俊行	女性診療科・産科	1,170,000	補委	文部科学省
臨床症状と遺伝素因に基づくベーチェット病の亜群分類	岳野 光洋	リウマチ・膠原病内科	1,430,000	補委	文部科学省
タウイメージングによる老年期幻覚妄想の病態解明研究	舘野 周	精神神経科	1,040,000	補委	文部科学省
Liquid biopsyを用いたHCC術後再発予測に有用なバイオマーカーの開発	谷合 信彦	消化器外科	1,820,000	補委	文部科学省
骨髄腫におけるKL-6およびMUC1-galectin-3による増悪化機構の解析	田村 秀人	血液内科	1,820,000	補委	文部科学省
定量的3D血流イメージを用いた血管再生治療後の微小血流評価	太良 修平	循環器内科	910,000	補委	文部科学省
iPS細胞の冠動脈内注入による低侵襲心筋再生療法	時田 祐吉	循環器内科	1,820,000	補委	文部科学省
膵癌化学療法効果予測miRNAの同定とバイオマーカー探索	中村 慶春	消化器外科	1,560,000	補委	文部科学省
緑内障における前房水と血中BDNFの濃度の検討	中元 兼二	眼科	1,690,000	補委	文部科学省
Gut microbiotaの制御が脳虚血病巣進展および神経機能に及ぼす影響	西山 康裕	脳神経内科	1,690,000	補委	文部科学省
3次元プリンターにより作製した心房電極を用いた心房細動の多点同時マッピング	新田 隆	心臓血管外科	2,860,000	補委	文部科学省
治療遺伝子を強発現させた歯髄幹細胞による脳梗塞治療法の確立-臨床応用へ向けて-	仁藤 智香子	脳神経内科	1,560,000	補委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
診療参加型実習に対応できる医学生の内視鏡外科手技自習プログラムの検討	野村 務	消化器外科	1,300,000	補委	文部科学省
4遺伝子シグネチャーによるI期肺腺癌再発予測システムの構築	野呂 林太郎	呼吸器内科	1,040,000	補委	文部科学省
造血幹細胞移植における脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた細胞療法の可能性の検討	早川 潤	小児科	780,000	補委	文部科学省
悪性黒色腫におけるMAPキナーゼ活性化制御分子の同定	船坂 陽子	皮膚科	1,560,000	補委	文部科学省
出血性ショック後臓器障害における分泌型microRNA・運搬体エキソゾームの関与	増野 智彦	救命救急科	1,560,000	補委	文部科学省
外科侵襲における脂肪組織のミトコンドリア/小胞体ストレス誘導性アポトーシスの解明	松谷 毅	消化器外科	1,430,000	補委	文部科学省
内耳性難聴発症に対する細胞生物学的・行動科学的アプローチと新規治療法の開発	松延 毅	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,560,000	補委	文部科学省
心房細動における心房炎症の意義と電気生理学的特徴:FDG-PETを用いた検討	宮内 靖史	循環器内科	780,000	補委	文部科学省
心筋細胞細胞外マトリックスグラフト移植による新しい心不全治療の開発	宮城 泰雄	心臓血管外科	2,090,000	補委	文部科学省
上皮バリア機能からみたドライノーズの物質的基盤の解明と先制医療への応用	三輪 正人	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補委	文部科学省
もやもや病類縁頭蓋内血管狭窄の網羅的遺伝子解析による発現機序の同定	村井 保夫	脳神経外科	1,300,000	補委	文部科学省
デジタル乳房トモシンセシス画像の最適化・品質管理の研究	村上 隆介	放射線科	1,040,000	補委	文部科学省
先天性角化不全症の新規原因遺伝子変異の同定と新規治療法の開発	山口 博樹	血液内科	910,000	補委	文部科学省
循環DNAと循環腫瘍細胞を用いた抗EGFR抗体耐性機序の解明と新規分子標的の探索	山田 岳史	消化器外科	1,560,000	補委	文部科学省
脳死下臓器提供への本人意思を実現するために救急医療施設が対応すべき脳死判定の研究	横田 裕行	救命救急科	1,430,000	補委	文部科学省
加温抗癌剤を用いた革新的な肝動脈化学塞栓術の開発	上田 達夫	放射線科	1,040,000	補委	文部科学省
SCUにおける脳梗塞早期再灌流療法後の急性腎障害発症とバイオマーカーに関する検討	下山 隆	脳神経内科	650,000	補委	文部科学省
k-t PCA法を組み合わせた高速・高画質な脳4D Flow MRI撮像法の開発	関根 鉄朗	放射線科	1,690,000	補委	文部科学省
小児肥満リスク予測因子としての日齢0から3歳までの腸内細菌叢解析	田嶋 華子	小児科	650,000	補委	文部科学省
うつ病におけるセロトニン1B受容体のPETイメージングを用いた評価研究	野上 毅	精神神経科	1,040,000	補委	文部科学省
親油性白金系抗癌剤のemulsion化による薬剤送達最適化の試み	安井 大祐	放射線科	1,170,000	補委	文部科学省
エストロゲンで発現変化するウロコルチン2は女性の気分調節因子か?	渡邊 建一郎	女性診療科・産科	1,300,000	補委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
下咽頭食道癌切除、再建手術における嚥下機能改善のための食道内圧測定	梅澤 裕己	形成外科・再建外科・美容外科	130,000	補委 文部科学省
聴覚障害におけるRas/Erk経路の細胞生物学的・行動科学的アプローチによる研究	加藤 大星	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,560,000	補委 文部科学省
ドパミントランスポーター及びタウイメーキングによる老年期発症うつ病の病態解明研究	坂寄 健	精神神経科	1,430,000	補委 文部科学省
がん幹細胞・上皮間葉移行が関わる肺がん分子標的薬の耐性克服～根治を目指して	菅野 哲平	呼吸器内科	1,560,000	補委 文部科学省
急性硬膜下血腫-幹細胞移植モデルを用いた急性期プレコンディショニング治療の確立	横堀 将司	救命救急科	1,560,000	補委 文部科学省
認知症の情動認知評価法の開発とデフォルトモード脳機能・分子イメージング研究の融合(国際共同研究強化)	肥田 道彦	精神神経科	14,950,000	補委 文部科学省
iPS細胞の冠動脈内注入による低侵襲心筋再生療法(大型動物での検討)(国際共同研究強化)	時田 祐吉	循環器内科	14,950,000	補委 文部科学省
4遺伝子シグネチャーによるI期肺腺癌の再発予測システムの構築 国際共同試験	野呂 林太郎	呼吸器内科	11,960,000	補委 文部科学省
本邦の甲状腺癌大規模症例群を用いた分子標的探索と分子・臨床統合的リスク分類の策定	杉谷 巖	内分泌外科	910,000	補委 文部科学省
医療人工知能におけるブラックボックスの解明	赤塚 純	泌尿器科	195,000	補委 文部科学省
非侵襲的脳機能画像法による歯科恐怖症の脳内ネットワークの解明と新たな対応法の開発	大久保 善朗	精神神経科	130,000	補委 文部科学省
非侵襲的脳機能画像法による歯科恐怖症の脳内ネットワークの解明と新たな対応法の開発	肥田 道彦	精神神経科	130,000	補委 文部科学省
インスリン分泌能規定因子としての脂肪酸動態:新規モデルマウスを用いた解析	杉原 仁	糖尿病・内分泌代謝内科	260,000	補委 文部科学省
非侵襲的脳機能画像法による歯科恐怖症の脳内ネットワークの解明と新たな対応法の開発	舘野 周	精神神経科	130,000	補委 文部科学省
新規シスプラチン誘発筋萎縮バイオマーカーmiRNAの同定と機能解析	山田 岳史	消化器外科	52,000	補委 文部科学省
Liquid biopsyと腫瘍生検の遺伝子変異パターンによる直腸癌治療の最適化	山田 岳史	消化器外科	130,000	補委 文部科学省
幹細胞における老化機序解明と組織再生へ向けた試み	松下 晃	消化器外科	39,000	補委 文部科学省

小計17件

合計99件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭者名の 特定機能病 院における 所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当 ページ	論文種別
1	Akiyama T, Koeda M, Okubo Y, et al.	精神神経科	Hypofunction of left dorsolateral prefrontal cortex in depression during verbal fluency task: A multi-channel near-infrared spectroscopy study.	J Affect Disord.	2018年4月	第231巻 P83-90	Original Article
2	Tiger M, Varnäs K, Okubo Y	精神神経科	The 5-HT1B receptor - a potential target for antidepressant treatment.	Psychopharmacology (Berl)	2018年5月	第235巻 P1317-1334	Review
3	Orita Erika	放射線科	Four-Dimensional Flow MRI Analysis of Cerebral Blood Flow Before and After High-Flow Extracranial-Intracranial Bypass Surgery With Internal Carotid Artery Ligation Four-Dimensional Flow MRI Analysis of Cerebral Blood Flow Before and After High-Flow Extracranial-Intracranial Bypass Surgery With Internal Carotid Artery Ligation Four-Dimensional Flow MRI Analysis of Cerebral Blood Flow Before and After High-Flow Extracranial-Intracranial Bypass Surgery With Internal Carotid	Neurosurgery	2019 7	1;85(1):58-64	Original Article
4	Sekine Teturo	放射線科	Veit-Haibach P. Reduction of (18)F-FDG Dose in Clinical PET/MR Imaging by Using Silicon Photomultiplier Detectors	Radiology	2018 1	286:249-259	Original Article
5	Nitta Takashi	心臓血管外科	Is it about time to forget about intravascular lead?	J Thorac Cardiovasc Surg	2018年4月	Vol 155, P 1509-1510	Others
6	Shibata Masafumi, Takagi Gen, Kudo Mitsuhiro, et al.	心臓血管外科	Enhanced Sternal Healing Through Platelet-Rich Plasma and Biodegradable Gelatin Hydrogel.	Tissue Eng Part A	2018年6月	24(17-18), 1406-12	Original Article
7	Ishii Yosuke, Sakamoto Shun-ichiro, Miyagi Yasuo, et al.	心臓血管外科	Risk Factors of Recurrence of Atrial Fibrillation (AF) After AF Surgery in Patients With AF and Mitral Valve Disease	Semin Thoracic Surg	2018年8月	Vol 30, P 271-8	Original Article

8	Sakamoto Shun-ichiro, Hiramoto Atsushi, Ishii Yosuke, et al.	心臓血管外科	Surgical outcomes of modified-maze procedures in adults with atrial septal defect.	Surg Today	2019年2月	Vol 49, P 124-9	Original Article
9	Ono M, Takano Y, Haida M.	眼科	Objective Ocular Discomfort: Noninvasive Evaluation by Functional Near-Infrared Ray Spectroscopy	Investigative ophthalmology & visual science	2018 Sep 27	4;59(11):4683-4690.	Original Article
10	Nakamoto K, Takeshi M, Hiraoka T et al.	眼科	The 24-hour intraocular pressure control by tafluprost/timolol fixed combination after switching from the concomitant use of tafluprost and timolol gel-forming solution, in patients with primary open-angle glaucoma.	Clin Ophthalmol	2018 Feb 19	19;12:359-367	Original Article
11	Nakano Y, Uchiyama M, Arima T et al.	眼科	Peroxisome proliferator-activated receptor α agonist suppressed inflammation in corneal alkali burn by preventing up-regulation of proinflammatory cytokines and MCP-1 nuclear translocation of NF- κ B.	Molecules	2018 Dec 29	24(1). pii: E114.	Original Article
12	Kuwabara Yoshimitsu, Katayama Akira, Kurihara Sachiko et al.	女性診療科・産科	Immunoproteomic identification of anti-C9 autoimmune antibody in patients with seronegative obstetric	PLoS One	2018年6月	第13巻 e0198472	Original Article
13	Negishi Ysuyuki, Takahashi Hidehiko, Kuwabara Yoshimitsu et al.	女性診療科・産科	Innate immune cells in reproduction.	J Obstet Gynaecol Res	2018年11月	第44巻P2025-2036	Original Article
14	Ono Shuichi, Kuwabara Yoshimitsu, Matsuda Shigeru et al.	女性診療科・産科	Is hysteroscopic metroplasty using the incision method for septate uterus a risk factor for adverse obstetric outcomes?	J Obstet Gynaecol Res	2019年3月	第45巻P634-639	Original Article
15	Ouchi Nozomi, Kuwabara Yoshimitsu, Yonezawa Mirei et al.	女性診療科・産科	Successful Management of Complicated Uterine Displacement Caused by Unilateral Incarceration of the Bicornuate Uterus.	Case Rep Obstet Gynaecol	2019年3月	2019.Mar 7;2019:3205610(オンライン)	Original Article
16	Shoji Yokobori	救命救急科	Feasibility of Human Neural Stem Cell Transplantation for the Treatment of Acute Subdural Hematoma in a Rat Model: A Pilot Study.	Front Neurol.	2019年2月	12;10:82	Original Article
17	Aoki Y, Taniai N, Yoshioka M, Kawano Y, Shimizu T, Kanda T, Kondo R, Kaneya Y, Furuki H, Uchida E	消化器外科	Serum procalcitonin concentration within 2 days postoperatively accurately predicts outcome after liver resection	Clin Chem Lab Med	2018年	56(8)1362-1372	Original Article

18	Aoki Y, Aida J, Kawano Y, Nakamura K, Izumiyama-Shimomura N, Ishikawa N, Arai T, Nakamura Y, Taniai N, Uchida E, Takubo K, Ishiwata T	消化器外科	Telomere length of gallbladder epithelium is shortened in patients with congenital biliary dilatation: measurement by quantitative fluorescence in situ hybridization	J Gastroenterol	2018年	53 291-301	Original Article
19	Koizumi M, Yamada T, Shinji S, Yokoyama Y, Takahashi G, Iwai T, Takeda K, Hara K, Ohta K, Uchida E, Yoshida H	消化器外科	Feasibility of Neoadjuvant FOLFOX Therapy Without Radiotherapy for Baseline Resectable Rectal Cancer	in vivo	2018年	32 937-943	Original Article
20	Takahashi G, Yamada T, Iwai T, Takeda K, Koizumu M, Shinji S, Uchida E	消化器外科	Oncological Assessment of Stent Placement for Obstructive Colorectal Cancer from Circulating Cell-Free DNA and Circulating Tumor DNA Dynamics	Ann surg Oncol	2018年	25 737-744	Original Article
21	Shinji S, Uchida Y, Yamada T, Koizumu M, Yokoyama Y, Takahashi G, Hotta M, Iwai T, Hara K, Takeda K, Okusa M, Kan H, Uchida E, Yoshida H	消化器外科	Male sex and history of ischemic heart disease are major risk factors for anastomotic leakage after laparoscopic anterior resection in patients with rectal cancer	Shinji et al. BMC Gastroenterology	2018年	18(117)1-11	Original Article
22	Furuki H, Yamada T, Takahashi G, Iwai T, Koizumi M, Shinji S, Yokoyama Y, Takeda K, Taniai N, uchida E	消化器外科	Evaluation of liquid biopsies for detection of emerging mutated genes in metastatic colorectal cancer	European Journal of Surgical Oncology	2018年	44(7)975-982	Original Article
23	Taniai N, Machida T, Yoshida H, Yoshioka M, Kawano Y, Shimizu T, Aoki Y	消化器外科	Role of the anterior fissure vein in ventral or dorsal resection at Segment 8 of liver	European Journal of Surgical Oncology	2018年	44(5)664-669	Original Article
24	Matsutani T, Hagiwara N, Nomura T, Fujita I, Kanazawa Y, Kakinuma D, Matsuda A, Uchida E	消化器外科	Long-term survival after multidisciplinary therapy for brain metastases from asymptomatic esophageal adenocarcinoma	Clinical Journal of Gastroenterology	2018年	11 113-117	Case report
25	Yamada T, Matsuda A, Koizumi M, Shinji S, Takahashi G, Iwai T, Takeda K, Ueda K, Yokoyama Y, Hara K, Hotta M, Matsumoto S, Yoshida H	消化器外科	Liquid Biopsy for the Management of Patients with Colorectal Cancer	Digestion	2019年	99(1)39-45	Original Article
26	Arai H, Wada R, Ishino K, Kudo M, Uchida E, Naito Z	消化器外科	Expression of DNA damage response proteins in gastric cancer: Comprehensive protein profiling and histological analysis	Int J Oncol.	2018年	52(3):978-988	Original Article

27	Hosokawa Yusuke, Ko Toshinori, Suzuki Keishi, et al.	心臓血管集中治療科	A Novel Use of Dio Catheter for Delivery of Rotational Atherectomy Burr in Tortuous Coronary Artery.	Cath Lab Digest	2018年4月	第26巻.4.E (オンライン)	Case report
28	Kubota Yoshiaki, Yamamoto Takeshi, Tara Shuhei, et al.	循環器内科	Effect of Empagliflozin Versus Placebo on Cardiac Sympathetic Activity in Acute Myocardial Infarction Patients with Type 2 Diabetes Mellitus: Rationale.	Diabetes Therapy	2018年7月	第9巻 P2107-2116	Original Article
29	Kubota Yoshiaki, Tay Wan Ting, Asai Kuniya, et al.	循環器内科	Chronic obstructive pulmonary disease and β -blocker treatment in Asian patients with heart failure.	ESC Heart Failure	2018年4月	第5巻 P297-305	Original Article
30	Yodogawa Kenji, Seino Yoshihiko, Ohara Toshihiko	循環器内科	Prognostic significance of ventricular late potentials in patients with pulmonary sarcoidosis.	Heart Rhythm	2018年6月	第15巻 P798-802	Original Article
31	Shibata Masafumi, Takagi Gen, Kudo Mitsuhiro他	心臓血管外科	Enhanced Sternal Healing Through Platelet-Rich Plasma and Biodegradable Gelatin Hydrogel.	Tissue Eng Part A.	2018年9月	第24巻 P1406-1412	Original Article
32	Shimizu Wataru, Makimoto Hisaki, Yamagata Kenichiro, et al.	循環器内科	Association of Genetic and Clinical Aspects of Congenital Long QT Syndrome With Life-Threatening Arrhythmias in Japanese Patients.	JAMA Cardiol	2019年3月	第4巻 P246-254	Original Article
33	Yoichi Imori, Yu-Ki Iwasaki, Hitoshi Takano, et al.	循環器内科	Takotsubo syndrome with severe bradycardia initiated by seizure: Is the implantation of a permanent pacemaker necessary?	BMJ case report	2018年10月(オンライン)		Case report
34	Matsuda Junya, Takano Hitoshi, Shimizu Wataru	循環器内科	IgG4-related periarteritis in the coronary artery and subclinical pericarditis assessed the presence and monitoring of therapy response by PET and CT scan.	BMJ Case Reports	2018/6/6 (オンライン)		Case report
35	Eiichiro Oka, Yu-ki Iwasaki, Yujin Maru, et al.	循環器内科	Prevalence and Significance of an Early Repolarization Electrocardiographic Pattern and its Mechanistic Insight Based on Cardiac Magnetic Resonance Imaging in Patients With Acute Myocarditis	Circulation: Arrhythmia and Electrophysiology	2019年3月	第12巻 e006969	Original Article
36	Eiichiro Oka, Yu-ki Iwasaki, Eugene Maru, et al.	循環器内科	Differential Effectiveness of Landiolol Between Atrial Fibrillation and Atrial Flutter/Atrial Tachycardia Patients With Left Ventricular Dysfunction.	Circulation Journal	2019年3月	第83巻 pp793-800	Original Article

37	Yuhi Fujimoto, Kenji Yodogawa, Yu-jin Maru, et. al.	循環器内科	Advanced interatrial block is an electrocardiographic marker for recurrence of atrial fibrillation after electrical cardioversion.	Int J Cardiol	2018年12月	282巻P113-117	Original Article
38	Miyachi Hideki, Reinhardt JW, Otsuru Satoru, et al.	循環器内科	Bone marrow-derived mononuclear cell seeded bioresorbable vascular graft improves acute graft patency by inhibiting thrombus formation via platelet adhesion.	Int J Cardiol	2018年9月	第266巻 P61-66	Original Article
39	Kuwana Masataka	リウマチ・膠原病内科	Personalized medicine in connective tissue disease: historical and future perspectives.	Pers. Med. Univers.	2018年7月	第1巻 P1-6	Review
40	Gono T, Okazaki Y, Murakami A, et al	リウマチ・膠原病内科	Improved quantification of a commercial enzyme-linked immunosorbent assay kit for measuring anti-MDA5 antibody.	Mod. Rheumatol	2019年1月	第1巻 P140-145	Original Article
41	Sugitani I, Onoda N, Ito K, Suzuki S	内分泌外科	Management of Anaplastic Thyroid Carcinoma: the Fruits from ATC Research	J Nippon Med Sch	2018	85(1) 18-27	Review
42	Nagaoka R, Sugitani I, Sanada M et.al	内分泌外科	Learning curve for endoscopic thyroidectomy using the VANS method	World J Endocr Surg	2018	10(1) 66-67	Original Article
43	Nagaoka R, Sugitani I, Sanada M et.al	内分泌外科	The reality of multiple endocrine neoplasia type 2B diagnosis: Awareness of unique appearance is important	J Nippon Med Sch	2018	85(3) 178-182	Case report
44	Sugitani I	内分泌外科	Active surveillance for very low-risk papillary thyroid carcinoma: experience and perspectives from Japan	Ann Thyroid	2018	3 26	Review
45	Watanabe M, Fukazawa R, Ogawa S, et al	小児科	Virtual histology intravascular ultrasound evaluation of coronary artery lesions within 1 year and more than 10 years after the onset of Kawasaki disease.	J Cardiol.	2019年8月	J Cardiol. 2019 Aug 21 (オンライン)	Original Article
46	Hashimoto Y, Fukazawa R, Nagi-Miura N, et al	小児科	Interleukin-1beta Inhibition Attenuates Vasculitis in a Mouse Model of Kawasaki Disease.	J Nippon Med Sch.	2019年2月	86(2):108-116	Original Article

47	Pawankar R	小児科	Climate change, air pollution, and biodiversity in Asia Pacific: impact on allergic diseases	Asia Pac Allergy.	2019年4月	Asia Pac Allergy. 2019 Apr; 9(2):e11. (オンライン)	Review
48	Ueda T, Migita M, Itabashi T, et al	小児科	Therapy-related Secondary Malignancy After Treatment of Childhood Malignancy: Cases from a Single Center.	J Nippon Med Sch.	2019年9月	86(4):207-214	Original Article
49	Takeshita H, Watanabe E, Norose Y, et al	小児科	Neutralizing antibodies for Helicobacter pylori urease inhibit bacterial colonization in the murine stomach in vivo.	Biomed Res	2019年2月	40(2):87-95	Original Article
50	Suzuki T, Tajima H, Migita M, et al	小児科	A case of anhidrotic ectodermal dysplasia presenting with pyrexia, atopic eczema, and food allergy.	Asia Pac Allergy.	2019年1月	Asia Pac Allergy. 2019 Jan 14;9(1):e3 (オンライン)	Case report
51	Narazaki H, Yanagihara T, Shimizu M, et al	小児科	Pediatric immunoglobulin A complex secretory component deficiency.	Pediatr Int.	2018年7月	60(7):662-663	Original Article
52	Tajima H, Pawankar R.	小児科	Obesity and adiposity indicators in asthma and allergic rhinitis in children.	Curr Opin Allergy Clin Immunol.	2019年2月	19(1):7-11	Review
53	Kawakami Y, Fujii S, Ishikawa G, et al	小児科	Valproate-Induced Polycystic Ovary Syndrome in a Girl with Epilepsy: A Case Study.	J Nippon Med Sch.	2018年10月	85(5):287-290	Case report
54	Nishigori A, Hatori T, Asano T.	小児科	An 8-Year-Old Girl with Autoimmune Hepatitis Following Aplastic Anemia.	J Nippon Med Sch.	2018年8月	85(4):241-244	Case report
55	Tsuno K, Miyatake C, Nishijima H, et al	小児科	Coxsackievirus B5 Aseptic Meningitis in Infants in Chiba Prefecture, Japan, in 2016.	J Nippon Med Sch.	2018年6月	85(3):187-190	Original Article
56	Ikari N, Shimizu A, Asano T.	小児科	Lysosomal Acid Lipase Deficiency in Japan: A Case Report of Siblings and a Literature Review of Cases in Japan.	J Nippon Med Sch.	2018年4月	85(2):131-137	Case report

57	Kobayashi S, Nagao M, Asai A, et al..	糖尿病・内分泌代謝内科	Severity and multiplicity of microvascular complications are associated with QT interval prolongation in patients with type 2 diabetes.	J Diabetes Investig.	2018年7月	第9巻 P:946-951	Original Article
58	Okajima F, Nakamura Y, Yamaguchi Y, et al.	糖尿病・内分泌代謝内科	Basal-Bolus Insulin Therapy with Glu-300 During Hospitalization Reduces Nocturnal Hypoglycemia in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus: A Randomized Controlled Study.	Diabetes Ther.	2018年6月	第9巻 P:1049-1059	Original Article
59	Kurita Tomoko, Wei W, Hess KR, 他	乳腺科	Comparison of Residual Risk-Based Eligibility vs Tumor Size and Nodal Status for Power Estimates in Adjuvant Trials of Breast Cancer Therapies	JAMA Oncology. 2018 Apr (オンライン)	2018年4月	4(4): e175092	Original Article
60	Morita A	脳神経外科	Size is the Most Important Predictor of Aneurysm Rupture Among Multiple Cerebral Aneurysms : Post Hoc Subgroup Analysis of Unruptured Cerebral Aneurysm Study Japan	Neurosurgery	2018年	Jun 1;82(6) 864-869	Original Article
61	Morita A	脳神経外科	Prediction of recovery from supplementary motor area syndrome after brain tumor surgery: preoperative diffusion tensor tractography analysis and postoperative neurological clinical course	Neurosurg Focus	2018年	Jun;44(6)	Original Article
62	Morimoto D	脳神経外科	Deep Decompression of the Lateral Femoral Cutaneous Nerve Under Local Anesthesia	World Neurosurg	2018年	Oct;118: e659-e665	Original Article
63	Morita A	脳神経外科	Pedicle Galeo-pericranial Flap Augmentation in Salvage Frontotemporal Cranioplasty: Additional 'Neurosurgeon-friendly' Reconstruction Technique of Aesthetic Neurosurgery in Superficial Temporal Artery Branch Compromised Host	Neurol Med Chir	2018年	Aug 15;58(8) 350-355	Original Article
64	Morita A	脳神経外科	Occipital lobe epilepsy was presented in a patient with intracerebral schwannoma: a case report and literature review	International Journal of Neuroscience	2018年	DOI: 10.1080/00207454.2018.1526797	Original Article
65	Morita A	脳神経外科	Neck haematoma after carotid endarterectomy: risks, rescue, and prevention	Br J Neurosurg	2018年	28 1-5	Original Article
66	Murai Y	脳神経外科	Preliminary Clinical Microneurosurgical Experience With the 4K3-Dimensional Microvideoscope (ORBEEYE) System for Microneurological Surgery: Observation Study.	Oper Neurosurg (Hagerstown).	2018年	Dec 3. doi: 10.1093/ons/opy277. [Epub ahead of print]	Original Article

67	Morimoto D	脳神経外科	Deep decompression of the lateral femoral cutaneous nerve under local anesthesia.	World Neurosurg	2018年	118(8) e659-665	Original Article
68	Morimoto D	脳神経外科	Deep decompression of the lateral femoral cutaneous nerve under local anesthesia	World Neurosurg	2018年	118 e659-665	Original Article
69	Morita A	脳神経外科	Acute post-stroke depression is associated with thalamic lesions and the clinical outcome: A case-control study.	J Stroke Cerebrovasc Dis.	2018年	27(2) 499-505	Original Article
70	Morita A	脳神経外科	Anatomical variation in a patient with lateral femoral cutaneous nerve entrapment neuropathy.	World Neurosurg.	2018年	May 2. pii: S1878-8750(18)30879-9. doi: 10.1016/j.wneu.2018.04.159.	Original Article
71	Omori J, Fujimori S, Kosugi Y et.al	消化器・肝臓内科	Pilot Study Indicates Helicobacter pylori Infection May Induce Small Intestinal Mucosal Injury.	Digestion.	2019年	99(1):66-71	Original Article
72	Goto O, Sasaki M, Akimoto T, et al.	消化器・肝臓内科	Flexible traction method for endoscopic resection by using an endoscopic hand suturing technique.	Endoscopy.	2019年1月	51(1):E3-E4.	Original Article
73	Atsukawa M, Tsubota A, Toyoda H,et al.	消化器・肝臓内科	Efficacy and safety of elbasvir/grazoprevir for Japanese patients with genotype 1b chronic hepatitis C complicated by chronic kidney disease, including those undergoing hemodialysis: A post hoc analysis of a multicenter study.	J Gastroenterol Hepatol.	2019年2月	34(2):364-369.	Original Article
74	Kaise M, Iwakiri K.	消化器・肝臓内科	Real-Time Endoscopic Assessment of Histology: How Close Are We to the Goal of Optical Biopsy?	Am J Gastroenterol.	2018年10月	113(10):1405-1408.	Original Article
75	Kawami N, Hoshino S, Hoshikawa Y,et al.	消化器・肝臓内科	Pathogenesis of Potassium-Competitive Acid Blocker-Resistant Non-Erosive Reflux Disease.	Digestion.	2018年	98(3):194-200.	Original Article
76	Umezawa M, Kawami N, Hoshino S, et al.	消化器・肝臓内科	Efficacy of On-Demand Therapy Using 20-mg Vonoprazan for Mild Reflux Esophagitis.	Digestion.	2018年	97(4):309-315.	Original Article

77	Arai T, Atsukawa M, Tsubota A, et al.	消化器・肝臓内科	Efficacy and safety of ombitasvir/paritaprevir/ritonavir combination therapy for genotype 1b chronic hepatitis C patients complicated with chronic kidney disease.	Hepatol Res.	2018年6月	48(7):549-555.	Original Article
78	Atsukawa M, Tsubota A, Okubo T, et al.	消化器・肝臓内科	Serum Wisteria floribunda agglutinin-positive Mac-2 binding protein more reliably distinguishes liver fibrosis stages in non-alcoholic fatty liver disease than serum Mac-2 binding protein.	Hepatol Res.	2018年5月	48(6):424-432.	Original Article
79	Atsukawa M, Tsubota A, Kato K, et al.	消化器・肝臓内科	Analysis of factors predicting the response to tolvaptan in patients with liver cirrhosis and hepatic edema.	J Gastroenterol Hepatol.	2018年6月	33(6):1256-1263.	Original Article
80	Hanada Y, Hoshino S, Hoshikawa Y, et al.	消化器・肝臓内科	Endoscopic diagnosis of hiatus hernia under deep inspiration is not consistent with esophageal manometric diagnosis.	J Gastroenterol.	2018年6月	53(6):712-717.	Original Article
81	Masaki Tadashi, Takahashi Kenji, Hashimoto Sanshiro, et al	整形外科・リウマチ外科	Volume change in infrapatellar fat pad is associated not with obesity but with cartilage degeneration.	J Orthop Res	2019年3月	37(3): 593-6004	Original Article
82	Kitagawa Yasuyuki, Ito Toshihiko, Mizuno Y,	整形外科・リウマチ外科	Diagnosis of bone metastasis in patients without a history of cancer.	J Nippon Med Sch	2019年2月	86(1):22-26.	Original Article
83	Take Masaki, Tomori Yuji, Sawaizumi Takuya, et	整形外科・リウマチ外科	Ulnar osteotomy and the ilizarov mini-fixator for pediatric chronic monteeggia fracture-dislocations.	Medicine (Baltimore)	2019年1月	98(1):e13978 (オンライン)	Original Article
84	Matsui Syuhei, Majima Tokifumi, Mominoki Katsumi, et al	整形外科・リウマチ外科	Effects of endoprosthesis head material on acetabular cartilage metabolism: An animal study using crossbred pigs.	J Nippon Med Sch	2018年12月	85(6): 309-314	Original Article
85	Kitagawa Yasuyuki, Yamaoka Takuji, Yokouti Mari, et al	整形外科・リウマチ外科	Diagnostic value of plain radiography for symptomatic bone metastasis at the first visit.	J Nippon Med Sch	2018年12月	85(6): 315-321	Original Article
86	Tomori Yuji, Nanno Mitsuhiko, Takai Shinro, et al	整形外科・リウマチ外科	Clinical results of closed versus mini-open reduction with percutaneous pinning for supracondylar fractures of the humerus in children: A retrospective case-control study.	Medicine (Baltimore)	2018年11月	97(45):e13162 (オンライン)	Original Article

87	Kitagawa Yasuyuki, Ito Toshihiko, Mizuno Yoshihiro, et al	整形外科・リウマチ外科	Challenges in the diagnosis of bone metastasis in patients without a history of malignancy at their first clinic visit.	J Nippon Med Sch	2018年10月	85(5):271-278	Original Article
88	Tomori Yuji, Ohashi Ryuji, Sawaizumi Takuya, et al	整形外科・リウマチ外科	Intramuscular epithelioid sarcoma presenting as extrinsic flexor tightness in the forearm.	Hand Surg Am	2018年10月	43(10):954.e1-954	Original Article
89	Tomori Yuji, Nanno Mitsuhiko, Takai Shinro, et al	整形外科・リウマチ外科	Anterolateral approach for lateral humeral condylar fractures in children: Clinical results.	Medicine (Baltimore)	2018年9月	97(39):e12563 (オンライン)	Original Article
90	Sonoki Kentaro, Tomori Yuji, Obara Yoshinori, et al	整形外科・リウマチ外科	Preiser disease after repeated local glucocorticoid injections: A case report	Medicine (Baltimore)	2018年9月	97(38):e12413 (オンライン)	Original Article
91	Hashiguchi Hiroshi, Iwashita Satoshi, Yoneda Minoru, et al	整形外科・リウマチ外科	Factors influencing outcomes of nonsurgical treatment for baseball players with SLAP lesion.	Asia Pac J Sports Med Arthrosc Rehabil Technol	2018年9月	5;14:6-9	Original Article
92	Tomori Yuji, Nanno Mitsuhiko, Takai Shinro.	整形外科・リウマチ外科	Posteromedial elbow dislocation with lateral humeral condylar fracture in children: Three case reports and a literature review.	Medicine (Baltimore)	2018年9月	97(36):e12182. (オンライン)	Original Article
93	Mochizuki Yusuke, Chiba Tomoki, Kataoka Kensuke, et al	整形外科・リウマチ外科	Combinatorial CRISPR/Cas9 approach to elucidate a far-upstream enhancer complex for tissue-specific Sox9 expression.	Dev Cell	2018年9月	24;46(6):794-806	Original Article
94	Tomori Yuji, Sawaizumi Takuya, Nanno Mitsuhiko, et al	整形外科・リウマチ外科	Functional outcomes after the Sauvé-Kapandji procedure for distal radio-ulnar post-traumatic instability: a case control comparison of three different operative methods of stabilization of the ulnar stump.	Int Orthop	2018年9月	42(9):2173-2179	Original Article
95	Tomori Yuji, Motoda Norio, Ohashi Ryuji, et al	整形外科・リウマチ外科	Trans-scaphoid perilunate fracture-dislocation with concomitant lunotriquetral ligament disruption: A case report.	J Nippon Med Sch	2018年8月	85(4):231-235	Original Article
96	Watanabe Hiroshi, Ishii Hiroataka, Takahashi Kenji, et al	整形外科・リウマチ外科	Suitable reference gene selection for gene expression studies in knee osteoarthritis synovium using quantitative PCR analysis.	Connect Tissue Res	2018年7月	59(4):356-368	Original Article

97	SatakeYoshihiko, Takahashi Kenji,Saito Mitsuru, et al	整形外科・リウマ チ外科	Objective colorimetric evaluation of aging-related articular cartilage degeneration.	J Nippon Med Sch	2018年6月	85(3):157-165.	Original Article
98	Iwashita Satoshi, Hashiguchi Hiroshi, Okubo Atsushi, et al	整形外科・リウマ チ外科	Characteristics of the patients with delaminated rotator cuff tear.	SICOT J	2018年6月	SICOT J (オンラ イン)	Original Article
99	Hashiguchi Hiroshi,Iwashita Satoshi,Abe Kazumasa, et al	整形外科・リウマ チ外科	Arthroscopic coracoclavicular ligament reconstruction for acromioclavicular joint dislocation.	J Nippon Med Sch	2018年6月	85(3):166-171.	Original Article
100	Nanno Mitsuhiko, Kodera Norie, TomoriYuji, et al	整形外科・リウマ チ外科	Minimally invasive modified Camitz opponensplasty for severe carpal tunnel syndrome.	J Orthop Surg	2018年5月	J Orthop Surg(オ ンライン)	Original Article
101	Tomori Y, Iijima Norio, Hinuma Shuji, et al	整形外科・リウマ チ外科	Morphological analysis of trafficking and processing of anionic and cationic liposomes in cultured cells.	Acta Histochem Cytochem	2018年4月	27;51(2):81-92.	Original Article
102	Sakaguchi M, Yamaguchi H, Najima Y	血液内科	Prognostic impact of low allelic ratio FLT3-ITD and NPM1 mutation in acute myeloid leukemia.	Blood Adv	2018年10月	2(20):2744-2754	Original Article
103	Terada K, Yamaguchi H, Ueki T	血液内科	Usefulness of BCOR gene mutation as a prognostic factor in acute myeloid leukemia with intermediate cytogenetic prognosis.	Genes Chromosomes Cancer	2018年8月	57(8):401-408	Original Article

計 103 件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet alとする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

(注 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 研究の種類、審査委員会と窓口、研究内容と審査機関、臨床研究実施の流れ、研究計画書作成ならびに申請時の注意事項、研究計画の事前登録、学外での研究計画書の審査依頼について、相談窓口	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 委員会の構成、審議事項、利益相反マネジメントのプロセス、臨床研究に係る利益相反の審議に関する倫理委員会との関係、利益相反マネジメントの管理の方法等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年15回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容 特定臨床研究について 臨床研究法における利益相反管理について	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院の専門研修プログラムは、2年間の必修初期臨床研修の終了後、さらに臨床医学に関する知識と技能を向上させ、より専門的な臨床研修を行うためのものである。平成30年度より、新たな専門医制度が始まり、基本領域学会及び日本専門医機構の審査・認定を受けた専門研修プログラムに基づき、各領域で専門医取得や大学院進学等につながる多彩な研修コースを提示している。日本医科大学付属病院、武蔵小杉病院、多摩永山病院、千葉北総病院の四つの付属病院において、それぞれの特色を生かした診療体制の中でローテーションが可能であり、高度な医療、先進医療の研修を可能にしている。愛と研究心を有し、質の高い医療を求める国民のニーズに応えうる人材の育成を目指す。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	201.42人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
清水 渉	循環器内科	部長	34年	
木村和美	脳神経内科	部長	33年	
鶴岡秀一	腎臓内科	部長	30年	
猪口孝一	血液内科	部長	38年	
岩切勝彦	消化器・肝臓内科	部長	33年	
杉原 仁	内分泌代謝内科	部長	36年	
清家正博	呼吸器内科	部長	27年	
安武正弘	老年内科	部長	35年	
大久保善朗	精神科	部長	39年	
伊藤保彦	小児科	部長	36年	
佐伯秀久	皮膚科	部長	28年	
岸川洋昭	麻酔科	部長	24年	
汲田伸一郎	放射線科	部長	33年	
吉田 寛	消化器外科	部長	33年	
杉谷 巖	内分泌外科	部長	30年	
新田 隆	心臓血管外科	部長	38年	
白田実男	呼吸器外科	部長	25年	
森田明夫	脳神経外科	部長	37年	
高橋 浩	眼科	部長	36年	
大久保公裕	耳鼻いんこう科	部長	35年	
竹下俊行	産婦人科	部長	38年	
近藤幸尋	泌尿器科	部長	34年	
高井信朗	整形外科	部長	39年	
小川 令	形成外科	部長	20年	
横田裕行	救急科	部長	39年	
桑名正隆	リウマチ科	部長	31年	

高橋秀実	漢方内科	部長	39年
清水章	病理診断科	部長	34年
久野彰子	歯科	部長	26年
木村和美	リハビリテーション科	部長	33年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	院長 波田 伸一郎
管理担当者氏名	各部署長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	電子カルテ内サーバー
		処方せん	電子カルテ内サーバー
		手術記録	電子カルテ内サーバー
		看護記録	電子カルテ内サーバー
		検査所見記録	電子カルテ内サーバー
		エックス線写真	電子カルテ内サーバー
		紹介状	電子カルテ内サーバー
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ内サーバー
		電子保存管理 病院外持出の運用は無い	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課
		高度の医療の研修の実績	各部署
		閲覧実績	庶務課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	紹介患者に対する医療提供の実績	電子カルテ内サーバー
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	庶務課、薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部		
ファイル、PCによる保存管理			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御室	ファイル、PCによる保存管理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療録管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	法人総務部、庶務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	庶務課
		職員研修の実施状況	庶務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	庶務課
管理者が有する権限に関する状況	法人本部総務部		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法人本部監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人秘書室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	院長 汲田 伸一郎		
閲覧担当者氏名	庶務課 課長 樋口 憲二		
閲覧の求めに応じる場所	閲覧室		
閲覧の手続の概要			
閲覧についての書類を受取後、対応			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	1 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 1. 医療安全管理に関する基本的考え方 2. 医療に係る安全管理の組織に関する基本的事項 3. 医療安全管理のための職員研修に関する基本的事項 4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故発生時の対応に関する基本方針 6. 当院と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供 9. 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供 10. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無 (有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>) ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： 1. 医療の安全管理の総括に関すること 2. 医療安全管理指針及び医療安全マニュアルの策定及び変更に関すること 3. 重大な医療事故等に関する原因究明のための調査及び分析に関すること 4. 前号の分析結果を活用した医療事故等防止方策の立案及び実施並びに従業者への周知に関すること 5. 医療事故等防止方策の実施状況の調査及び見直しに関すること 6. 死亡退院事例報告の実施状況の確認及び確認結果の院長への報告並びに従業者への研修及び指導に関すること 7. 医療法（昭和23年法律第205号）第6条の11に規定する医療事故調査及び医療事故調査等支援団体に関すること 8. 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供 9. 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供 10. その他医療安全管理に関すること 	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年3回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>1. 平成30年度 第1回 医療安全管理研修講演会 開催日：平成30年5月28日 演 題：医療安全 どことなく違う日米 講 師：東京慈恵会医科大学 准教授（大学直属） 安田 信彦</p> <p>2. 平成30年度 個人情報保護研修講演会 開催日：平成30年6月25日 演 題：個人情報流出事故とは？～注意すべき事故類型～ 講 師：浜松医科大学医学部医療法学 教授（弁護士） 大磯 義一郎</p> <p>3. 平成30年度 第2回 医療安全管理研修講演会 開催日：平成31年3月25日 演 題：判例上求められるインフォームド・コンセント 講 師：浜松医科大学医学部医療法学 教授（弁護士） 大磯 義一郎</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（<input checked="" type="radio"/>有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>1. 医療安全管理集中管理システム（セーフマスター）での管理</p> <p>2. 医療安全ウェブサイト（安全オンデマンド）による情報共有</p> <p>3. 医療安全管理に関する規定（指針・ガイドライン・マニュアル）の改正・周知</p> <p>4. 医療安全管理の手引きの改正・配布</p> <p>5. リスクマネージャ会議（月1回）における改善方策周知</p> <p>6. 院内リスクアナウンス（安全情報等）の周知確認登録 （電子カルテシステム画面を利用したポータルサイト、院内FAX）等</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	○有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 院内感染対策に関する基本的考え方 2) 院内感染対策のための委員会その他の当該病院等の組織に関する基本的事項 3) 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 4) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7) その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染対策の強化、追加、改善に関する方針・対応策の検討、決定。 2) サーベイランスデータのフィードバックと問題点に関する対応策の検討、決定。 3) 感染防止ガイドライン、感染防止マニュアル、指針等の策定、改訂に関する検討、承認。 4) 院内感染対策研修及び教育活動に関する実施計画の策定、検討、承認、実施後報告、評価。 5) 上記1～4に関する周知・徹底、ならびに周知・徹底方法に関する対応策の協議・決定。 6) アウトブレイク等院内発生事象に関する報告、および対策の協議・決定(臨時会議開催等)。 7) 感染制御室業務、感染制御チーム活動、抗菌薬適正使用支援チームおよび感染管理マネージャー活動に関する報告、周知、助言、支援。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年3回
<p>・ 研修の内容(すべて)：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新人職者(研修医、専攻医・専修医を含む全職種)研修(講義/感染管理概論・当院の感染管理組織・医療関連感染防止・職業曝露防止・標準予防策・経路別予防策・抗菌薬適正使用・AMR対策、教育動画視聴、感染防止技術の実技演習)。 2) 院内感染対策研修講演会(全従業者を対象として) <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年7月5日：院内感染対策の現状と課題～抗菌薬適正使用支援ASTを含めて～ ・平成30年9月14日：日常診療における結核への備え ・平成31年1月31日(木)：①2018年の耐性菌と使用抗菌薬の動向を踏まえた今年目標、②標準予防策、接触予防策のピットフォール 3) 感染症レクチャー(全従業者を対象として) <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年9月19日、10月17日：Vol.1「もっと知ろう！古くて新しい感染症 結核！」 ・平成30年11月14日：Vol.2「おなかの風邪、のどの風邪、こどもの風邪、その抗菌薬は必要ですか？」 4) 中途採用者、異動者、復帰者を対象とした感染管理研修(随時) 4) 部門・職種別研修(講義および感染防止実技演習) <ul style="list-style-type: none"> ①委託(清掃業者等) ②臨床工学技士 ③集中治療部門(外科ICU/HCU、高度救命救急センター)医師 ④リハビリテーション部門 ⑤看護部感染防止リンクナース ⑥研修医(抗菌薬適正使用等) 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (○有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬剤耐性菌及び感染症の早期発見と対応、感染防止対策への対応と報告 <ul style="list-style-type: none"> ・私立医科大学病院感染対策協議会、管轄保健所、東京都福祉保健局等関連機関への相談・報告、有事発生時の改善支援依頼(平成30年度は依頼事項無) ・薬剤耐性菌積極的監視培養検査の継続実施(集中治療部門、NICU・GCU、海外で医療を受けたことのある入院予定患者等)。 ・薬剤耐性菌分離時、感染管理部門と当該部署、医師、その他職種間の情報共有(カンファレンスの開催)及び現場での感染対策自己点検と感染管理部門ラウンドの実施とフィードバック、委員会報告。 ・薬剤耐性菌分離時、感染制御チームラウンドと指導、介入。 	

- ・ICTラウンド時の微生物検査週報共有（毎週）。
 - ・マニュアルの作成、改訂。
 - ・抗菌薬適正支援チームによるラウンド（毎週）。
 - ・院内アンチバイオグラム作成と更新と院内公開、感染症リーフレットの作成。
- 2) 周知、業務改善
- ・研修や感染対策、その他共有情報の周知・徹底に係る電子カルテポータルサイトおよび感染管理マネージャーの活用。
 - ・感染症、薬剤耐性菌分離患者指定管理病室の運用。
 - ・集中治療部門管理軟性内視鏡洗浄・消毒の中央化。
- 3) 感染対策の周知と情報共有
- ・手指消毒薬サーベイランス：使用量調査および直接観察法による手指衛生遵守率測定と情報共有、フィードバック、私立医科大学病院ベンチマークとの比較。
 - ・感染制御チームラウンド（薬剤耐性菌対策、標準予防策、環境整備等感染防止チェックリスト）の実施（毎週）と結果のフィードバックと改善策提案、評価、当該部署からの改善報告。
 - ・感染制御室、感染制御チーム合同会議（12回/年）の実施。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年1回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>医薬品の安全使用のための研修（最近の医薬品関連の事故、事件、薬剤部からの医薬品安全性情報、日本医療評価機構からの、医薬品に関する安全性情報）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (○有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>年2回（3-9月）薬剤部、病棟、外来、医局長、薬事委員に対して、その実施状況をチェックリストを用いて確認。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：なし</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>薬品情報室が厚生労働省HP、PMDA、メーカー各社HP、製造販売業者HP、学術誌にて情報を収集している。得られた医薬品のうち必要なものについて医薬品を取り扱う職員に対して以下の方法にて周知している。</p> <p>部長会、医長会（院内会議）での周知。電子カルテの掲示板機能を利用した周知。医薬品情報（毎月）、薬剤部ニュース（随時）を作成し、各部署に配布することによる周知。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 56 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1) 特定機能病院における定期研修 平成30年4月10日 補助循環PCPS (SP200) 平成30年4月13日 人工呼吸器 平成30年8月10日 保育器 他</p> <p>2) 新しい医療機器の導入時の研修 平成30年4月9日 人工呼吸器 (infinity) 平成30年4月10日 生体情報モニタ (EV1000) 平成30年7月12日 シリンジポンプ (CSP120) 他</p> <p>3) その他必要に応じた研修 平成30年4月4日 補助循環PCPS (SP200) 平成30年6月21日 血液浄化 (DCS-100NX) 平成30年8月13日 生体情報モニタ (DSC-8730) 他</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (○有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p><保育器> 策定日：平成30年3月 実施予定日：4月、7月、10月、1月 実施日：4月、7月、10月、1月</p> <p><除細動器> 策定日：平成30年3月 実施予定日：5月、8月、11月、2月 実施日：5月、8月、11月、2月</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)：なし</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：未承認等の医療機器の使用なし PMDA、JCQHC等から発信される医療安全情報、医療機器製造および販売業者より発信される安全使用のための情報を収集し保管と、医療機器安全管理研修での周知と報告</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者は、医療安全管理部、医療に係る安全管理のための委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者を統括</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（1名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>添付文書、製造販売業者、行政・PMDA、学術誌などから情報を収集し、医薬品情報や薬剤部ニュースを作成し、部長会、医長会、医局、病棟などに配布し、電子カルテのポータルサイトでも確認できるようにしている。安全性情報が出た際には、前述の各媒体で周知するとともに、該当医薬品を使用している患者では、主治医へ連絡を行う。医薬品安全管理責任者はこれらの業務を薬剤部カンファレンス、日誌等で定期的に確認している。また、部長会等で医薬品情報に関するプレゼンテーションを行っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認新規医薬品等の使用状況の把握等を適切に実施するための担当者を薬剤部病棟部門長と定め、病棟薬剤師が実施している。未承認新規医薬品等の使用予定の情報が薬剤部に入った場合には、担当医師に未承認新規医薬品等を用いた医療の実施に関する申請受付及び審査は、医療安全管理部（未承認新規医薬品等管理室）で行っている旨、情報提供を行っている。また、禁忌薬や適応外使用に関しては、担当医師に倫理委員会での審査が必要な旨、情報提供を行っている。薬剤名、使用目的、使用する診療科、関連するエビデンスの確認等の情報収集を行っている。</p> <p>・担当者の指名の有無 有・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 伊勢 雄也）（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 稲毛 俊介） （所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 林 太祐） （所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 萩原 研）</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイドラインの目的 2. ICに対する姿勢 3. 原則 4. ICを行うべきとき、ICの書式、同意書書式などの細目について 5. ICガイドライン細則 <p>各診療科のカンファレンス実施時に、上級医によりインフォームド・コンセントが適切におこなわれているかを確認している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録等の適正な記載を目的として診療録等の監査を行う。</p> <p>なお、記載内容が不十分と思われる場合は適正な指導を行う。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（13）名、専任（3）名、兼任（14）名</p> <p>うち医師：専従（2）名、専任（2）名、兼任（5）名</p> <p>うち薬剤師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名</p> <p>うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（4）名</p> <p>その他：専従（6）名、専任（1）名、兼任（4）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療に係る安全管理のための指針の整備に関すること。 2. 医療に係る安全管理のための委員会の開催に関すること。 3. 医療に係る安全管理のための職員研修の実施に関すること。 	

4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の策定に関する事。
5. その他医療に係る安全管理のための事務一般に関する事。
6. 院内の環境・設備並びに職員の接遇に関する意見や苦情の対応に関する事。
7. 医療に係る安全管理に関する相談の対応に関する事。
8. 医療事故の渉外に関する事。
9. 個人情報の適正管理に関する事。
10. 個人情報の紛失・盗難・漏洩の防止に関する事。
11. 個人情報の紛失・盗難・漏洩時の対応に関する事。
12. 個人情報保護推進のための委員会の運営に関する事。
13. 院内感染対策のための指針の整備に関する事。
14. 院内感染対策のための委員会の開催に関する事。
15. 院内感染対策のための職員研修の実施に関する事。
16. 院内感染対策の推進を目的とした改善策の策定に関する事。
17. 高難度新規医療技術を用いた医療の提供に係る指針の整備に関する事。
18. 高難度新規医療技術を用いた医療の提供に係る安全管理に関する事。
19. 高難度新規医療技術評価委員会に関する事。
20. その他高難度新規医療技術を用いた医療の提供に係る事務一般に関する事。
21. 未承認新規医薬品や高度管理医療機器を用いた医療の提供に係る指針の整備に関する事。
22. 未承認新規医薬品や高度管理医療機器を用いた医療の提供に係る安全管理に関する事。
23. 未承認新規医薬品等評価委員会に関する事。
24. その他未承認新規医薬品や高度管理医療機器を用いた医療の提供に係る事務一般に関する事。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。
 患者への影響があり、医療安全管理部に報告のあったものについてカルテを確認している。
 認知度調査として、研修会受講後に確認テストを行っている。
 医療安全管理者を中心に病棟ラウンドを行い、医療安全管理に関する周知事項について認知の確認を行い、結果をフィードバックしている。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（6件）、及び許可件数（6件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医

療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有) ・
無)

・活動の主な内容 :

1. 申請手続きに関する事 (各診療科から提出される申請書類のチェックなど)
2. 医療提供の適否決定に関する事 (委員会での意見を確認の上、適否について決定し、提供にあたっての条件等を定める)
3. 医療提供後の確認に関する事 (適否の決定後、提供を認めた医療の報告対象の全症例について適切に業務が実施されたかどうか確認して院長報告、必要に応じて実施体制の見直しを行う)

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有) ・無)

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有) ・無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (2 件)、及び許可件数 (1 件)

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有) ・
無)

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有) ・無)

・活動の主な内容 :

1. 申請手続きに関する事 (各診療科から提出される申請書類のチェックなど)
2. 医療提供の適否決定に関する事 (委員会での意見を確認の上、適否について決定し、提供にあたっての条件等を定める)
3. 医療提供後の確認に関する事 (適否の決定後、提供を認めた医療の報告対象の全症例について適切に業務が実施されたかどうか確認して院長報告、必要に応じて実施体制の見直しを行う)

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有) ・無)

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有) ・無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況 : 年 636 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況 : 年 268 件

<p>・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容</p> <p>医療安全管理委員会は、上記報告が適切に行われているかを確認し、その結果を院長に報告している。仮に報告が不十分であれば、必要な指導などを行っている</p>
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <p>・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：埼玉医科大学病院））</p> <p>・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：埼玉医科大学病院））</p> <p>・技術的助言の実施状況</p> <p>私立医科大学病院医療安全相互ラウンドにて、年1回以上、他の特定機能病院に職員を立ち入らせ医療安全管理の改善に向けた技術的助言を受けている</p>
<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <p>・体制の確保状況 (設置状況等)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 窓口の名称：患者相談窓口 2. 責任者の氏名及び職種：医療安全管理部部長（医師） 3. 対応部署：医療安全管理部 患者相談室、患者支援センター 4. 相談日及び相談時間帯：平日：午前9時より午後5時、土曜日：午前9時より午後4時 5. 規約の整備状況：日本医科大学付属病院患者相談窓口運営細則（平成17年4月1日施行）

<p>⑫ 職員研修の実施状況</p> <p>・研修の実施状況</p> <p>診療録管理研修会 平成31年3月18日</p> <p>講師 診療録管理 八島室長</p>
--

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

<p>⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況</p> <p>・研修の実施状況</p> <p>管理者</p> <p>日本医療機能評価機構 「平成30年度特定機能病院管理者研修」平成30年9月17日、9月18日</p>
--

医療安全管理責任者

全国医学部長病院長会議 大学病院医療事故対策委員会 医療と刑事司法などに関する説明会
「医療事故調査制度研修会」平成 31 年 3 月 24 日

医薬品安全管理責任者

日本病院薬剤師会 「医薬品安全管理責任者等講習会」

医療機器安全管理責任者

日本医療機能評価機構 「平成 30 年度特定機能病院管理者研修」

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準の主な内容 <p>令和元年11月1日までに作成予定</p> <p>管理者の選任（任期） 平成30年4月1日から令和2年3月31日</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準に係る内部規程の公表の有無（有・無） 公表の方法

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算に関する事項 その他病院の管理運営に関する事項 人事異動報告、医療収入報告、医薬品情報報告、各種委員会における審議内容の報告 その他院長が必要と認める事項 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 各部署長が出席し、審議内容を職員へ周知している。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・(無) ） ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・(無) ） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
汲田 伸一郎	○	医師	院長
近藤 幸尋		医師	副院長
安武 正弘		医師	副院長
高橋 浩		医師	副院長
吉田 寛		医師	副院長
鈴木 智恵子		看護師	副院長
清水 渉		医師	循環器内科部長
木村 和美		医師	脳神経内科部長
鶴岡 秀一		医師	腎臓内科部長
桑名 正隆		医師	リウマチ・膠原病内科部長
猪口 孝一		医師	血液内科部長
杉原 仁		医師	糖尿病・内分泌代謝内科部長
岩切 勝彦		医師	消化器・肝臓内科部長
清家 正博		医師	呼吸器内科部長
久保田 馨		医師	化学療法科部長
大久保 善朗		医師	精神神経科部長
伊藤 保彦		医師	小児科部長
佐伯 秀久		医師	皮膚科部長
岸川 洋昭		医師	麻酔科・ペインクリニック部長
鈴木 規仁		医師	緩和ケア科部長

前林 勝也		医師	放射線治療科部長
武井 寛幸		医師	乳腺科部長
杉谷 巖		医師	内分泌外科部長
新田 隆		医師	心臓血管外科部長
臼田 実男		医師	呼吸器外科部長
森田 明夫		医師	脳神経外科部長
大久保 公裕		医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長
竹下 俊行		医師	女性診療科・産科部長
高井 信朗		医師	整形外科・リウマチ外科部長
小川 令		医師	形成外科・美容外科・再建外科部長
宮内 雅人		医師	救急診療科部長
横田 裕行		医師	救命救急科部長
廣田 薫		医師	東洋医学科部長
山田 岳史		医師	遺伝診療科部長
眞々田 裕宏		医師	がん診療科部長
清水 章		医師	病理診断科部長
市場 晋吾		医師	外科系集中治療科部長
久野 彰子		歯科医師	口腔科（周術期）部長
石井 英昭		医師	病理部部長
酒井 行直		医師	血液浄化療法センター室長
川井 真		医師	総合診療センター部長
貝瀬 満		医師	内視鏡センター室長
遠藤 康実		医師	臨床検査部部長
宮本 正章		医師	高気圧酸素治療室室長
田村 秀人		医師	輸血部部長
大塚 俊昭		医師	臨床研究総合センターセンター長
林 宏光		医師	医療情報センターセンター長
八島 正明		医師	保険診療指導部部長
平間 章郎		医師	腎クリニック所長
根井 貴仁		医師	医療安全管理部感染制御室室長
伊勢 雄也		薬剤師	薬剤部部長
山本 臣生		事務職員	事務部部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有 無 ）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容

管理者は、病院の業務を統括し、所属職員を指揮監督すると共に、病院全般の円滑な運営に当たる。
予算承認について、支出に拘わる案件の予算承認限度額を定める。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

【職名】副院長
手術室運営に関する事、収支改善に関する事、医療経費削減に関する事、医療連携に関する事、医師の負担軽減に関する事、臨床研修センター運営に関する事、医療安全・感染対策に関する事、経営戦略に関する事、看護部門に関する事、患者安全管理に関する事、病棟稼働率・平均在院日数等の効率化に関する事

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

日本私立医科大学協会病院事務長会議、病院庶務研究会等に出席している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況に応じて自ら確認を実施する。</p> <p>(2) 必要に応じ、理事長又は院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講じるよう意見を表明する。</p> <p>(3) 上記業務について、その結果を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>学校法人のホームページにて公表</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
長島 隆	東洋大学	○	利害関係のない学識経験者	有・(無)	1
小泉 博明	文京学院大学		利害関係のない学識経験者	有・(無)	1
豊田 郁子	NPO 法人「架け橋」		利害関係のない医療従事者以外の者	有・(無)	2
近藤 幸尋	日本医科大学付属病院		副院長・泌尿器科部長	(有)・無	3
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

定期的（年1回）に管理者による病院の管理状況を確認する。

必要に応じて臨時に確認を実施する。

・ 専門部署の設置の有無（有・無）

・ 内部規程の整備の有無（有・無）

・ 内部規程の公表の有無（有・無）

・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 原則として毎月1回理事長が招集し、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。 ・ 会議体の実施状況（ 年11回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年11回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 <input checked="" type="radio"/>無 ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 通報件数 (年0件)
- ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (有 ・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (有 ・ 無)
- ・ 周知の方法
ホームページを用いて公益通報・相談窓口のメールアドレス等の連絡先を恒常的に職員に対して周知。

(様式第 8)

番 号
令和元年 11 月 13 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 日本医科大学
理事長 坂本 篤

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

医療安全管理責任者

公益財団法人日本医療機能評価機構 特定機能病院管理者研修
令和元年 10 月 27 日・28 日受講済

医薬品安全管理責任者

公益財団法人日本医療機能評価機構 特定機能病院管理者研修
令和元年 10 月 27 日・28 日受講済

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
うち看護師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置